事　後　評　価　書

事業名	かんがい排水事業　中勢地区	事業区分	かんがい排水	室名	農業基盤室
事業概要	工期（下段計画）	昭和48年度～平成13年度 昭和48年度～平成13年度	全体事業費（下段計画）	10,185　百万円（負担率：国50%：県25%：他25%） 10,244　百万円（負担率：国50%：県25%：他25%）	
事業目的及び内容	本事業は、津市の北西に広がる平野約2,711haを受益地とし、農業生産の基礎となる水利条件を整備するものです。具体的には、国営中勢用水農業水利事業にて建設された安濃ダムを水源とし、安濃川の井堰の統合や農業用水路の整備により、計画的で効率的な農業用水の配分を行い、水利用の安定と合理化を図ります。 用水路工　L=94,154m、頭首工　3ヶ所、　水管理施設工　1式				

1・事業の効果

「直接的効果」

① 事業目的達成状況の評価

本事業で整備された基幹的な農業水利施設は、作物の安定生産に欠かすことのできない農業用水の確保と安定供給を可能とし、ほ場への用水配分等の作業が大幅に軽減されています。また、関連事業で実施したほ場の大区画化や排水条件の改善により、大型機械を利用した効率的な営農が可能となっています。

② 計画時算定効果と現状での効果（実測による数値、係数を用いた費用対効果分析等）の比較結果

作物生産効果、営農経費節減効果、維持管理費節減効果、更新効果、洪水調整効果、地域用水効果、水辺環境整備効果等の効果が発生しています。

計画（H13）の費用便益比＝1.27

現状（H19）の費用便益比＝1.01　　　　（内訳、詳細については別添資料参照）

費用便益比減少の主な理由としては、計画より麦の作付面積は大きくなっていますが、野菜の現状作付面積が小さくなっているため、それに伴い作物生産効果が減少し、費用便益比も減少となっています。

麦作付面積 計画 241ha 現状 452ha　　きゃべつ 計画 127ha 現状 33ha

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　なす　　 計画 108ha 現状 13ha

③ 定量化できない効果

管理用道路を生活道路として利用できるため利便性が向上しています。また、集落営農などの推進等により耕作放棄地の発生が抑制されています。

④ 完了後の利用、維持管理の状況

水管理については、集中管理システムにより効率的な農業用水の配分を行っています。維持管理については、国営・県営事業で整備した農業用施設については、中勢用水土地改良区が維持管理を行っています。また、末端施設においては、各関係集落の共同作業により、土砂上げや草刈り等の管理が行われており、施設は概ね適切に維持管理されています。

「間接的効果」

NPO法人「安濃川ルネッサンス」などにより、自然観察会や草刈りなどの活動が行われ、自然環境への関心がうかがえます。【発足H13.1.14】【活動 あのう川ウォッチング（清掃、観察会等）「子どもの水辺」協働事業（学校の観察会へ協力等）】

2・事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化

本事業の用水路工はほとんどが新設埋設管であり自然環境に大きな影響を与えていません。また、新設頭首工（第一、第二、第三頭首工（国営））は魚道の設置等により魚類への影響に配慮しています。

一方、安濃川についてのアンケートは次のような回答を多くいただいています。

「水量が少なくなった」「洪水が少なくなった」「魚等生き物が少なくなった」「景観が悪くなった」

また、安濃川の変化についてどの様な理由があるかとの問いには、「河川周辺の環境の変化」「安濃ダムや頭首工の建設」の選択肢に多く回答が寄せられています。

3・事業を巡る社会経済情勢等の変化

昭和４８年度当初と比較すると、水稲の作付け品種の変化と兼業農家の増加による田植え時期の早期化により、水利用が集中しています。事業完了後は、用水の安定供給により農作業の受委託が進行し、畑作物の減少傾向があるものの、麦・大豆等の集団転作の増加が見られます。

4・県民の意見

①県民の意見の徴収方法について
- 事業受益地内である旧津市、旧河芸町、旧芸濃町、旧安濃町等の農家、非農家合わせて１，０００戸にアンケート調査を実施しました。
- 質問項目の１７項目は、１.居住地域　２.事業の認知度　３.事業施設の認知度　４.農業経営形態　５.用水の利用状況　６.用水量の変化　７.水質の変化　８.用水管理作業の変化　９.農業に対する効果　１０.今後の用水有効利用　１１.今後の農業経営　１２.農業以外の効果　１３.整備された施設の管理状況　１４.事業に対する意見　１５.安濃ダムや頭首工設置による安濃川の変化　１６.変化の理由　１７.環境面について（１０・１４・１７は記述式）です。（アンケート内容は別添資料参照）

②県民の意見の内容（全体の意見と肯定、否定意見等）について取りまとめ、評価
- 【回収内訳】農家５５６戸、非農家１７戸、計５７３戸の回答を得ました。（回収率５７％）
- 【事業・施設の認知度(2･3)】「事業を知っている」という回答は８２％でした。造られた農業施設を「知らない」という回答がわずか５％でした。従いまして、地域での事業は概ね認知されていると判断します。
- 【農業の経営形態(4)】については、兼業農家が７６％となっています。
- 【用水量の変化(6)】については、中勢用水が利用できる前と比べて「水不足が解消された」２８％、「用水量は増えたが不足する場合がある」５５％の回答であり、事業効果は発現できましたが、地域性や時期等で用水量の不足が見られます。
- 【水質の変化(7)】については、「きれいになった」３７％、「汚くなった」９％との回答比率でした。
- 【用水管理作業の変化(8)】については、「楽になった」という回答が６９％を占め、用水管理の軽減が計れています。
- 【農業に対する効果(9)】については、「効果があった」に８７％の方が回答しており、事業実施の効果が認められます。またその内容については、「農作業が楽になった」「農道や用・排水路の維持管理が楽になった」との項目を多くの方があげています。
- 【今後の農業経営(11)】については、農業を続けていくと７４％の方から回答があり、継続的な農業への取り組みがうかがえます。一方、後継者が定まっておらず、農業ができなくなった後は委託を考えている方も多数います。
- 【農業以外の効果(12)】では、「効果があった」３１％、「農業以外の効果はなかった」４０％でした。効果があったという主な意見は、洪水防止機能の発揮、管理道路の利用、憩いの場としての利用です。
- 【整備された施設の管理状況(13)】については、「うまく管理されている」３８％、「うまく管理されていない」２６％、「わからない」３６％と意見が分れました。
- 【安濃ダムや頭首工設置による安濃川の変化(15)】についてのうち、水量については「多くなった」１９％、「少なくなった」４７％、また、水質については「きれいになった」２３％、「汚くなった」３２％、洪水については、「少なくなった」５９％、「変わらない」１８％、魚等の生き物については、「少なくなった」５９％、「変わらない」１４％、景観については、「きれいになった」１７％、「悪くなった」４０％でありました。
- 【それらの変化の理由(16)】については、「安濃ダムや頭首工の建設」３５％、「安濃川周辺の環境の変化」４２％との回答が多く寄せられました。
- 【総評】これらのアンケート結果から、概ね事業の目的は達成し、効果があったと判断できます。農業以外の効果も、多くはありませんが発現しています。しかし、安濃川につきましては、ダムにより洪水は軽減できていますが、逆に水量は減少し、社会環境の変化もあると推測されますが、環境面にはマイナスとなっています。
- 【その他の意見】として、今後、中勢用水の有効利用を行うために配慮すべき点については、安定的な用水確保の意見が多く、また、使用方法の改善意見やパイプライン化やため池等の改修などの意見もありました。しかし、昨今の米価の低下、後継者の不足を心配し、これ以上の事業費の負担には再考するべきとの意見もありました。

5・今後の課題等

①　異常気象や作付け時期の集中による用水不足の対応として、公平な水配分や作付け時期の平準化や、用水の有効利用と省力化を図るためのパイプライン化など、関係者で対応を検討することが必要です。

②　本事業で整備された施設の機能を維持するための適切な維持管理や、長寿命化を図るための保全対策を講じていく必要があります。

以上、かんがい排水事業実施における課題に取り組むことにより、今後の事業の改善に努めるとともに、地域の持続的な農業につなげていきたいと考えています。